

## 岐阜関ヶ原古戦場記念館協議会 議事要旨

日 時 令和8年2月26日(木) 13時30分～15時00分

場 所 岐阜関ヶ原古戦場記念館 3階セミナールーム

参加委員 三輪会長、いなもと委員、葛西委員、笠谷委員、北村委員、松川委員

欠席委員 伊藤委員

県(事務局) 小和田館長、柴田副館長、山本総務課長、池戸企画課長

### 【会議の概要】

議題1 令和7年度運営実績について

議題2 令和8年度事業計画について

- ・事務局から資料に沿って説明した。

### 議題3 意見交換

(伊藤委員) ※事務局代読

- ・これまでの評価指標が来館者数など人数ベースに偏っている印象を受けるが、本来は観光コンテンツとしての価値を高め、地域振興へとつなげていく視点が不可欠であり、経済的観点を含めた多角的な評価指標の導入が必要ではないか。飲食・物販を含めた総売上高、収支状況、運営経費、さらには周辺地域への経済波及効果などを指標として検討することが望まれる。
- ・来館者数のみでは施設の本来の成果を十分に測ることは難しく、地域経済への貢献度を可視化することが、今後の運営方針の検討にも資するものと考ええる。
- ・地域内での消費を促す仕組みづくりの観点から、エージェントとの連携強化が重要。
- ・国内向けツアーの造成やインバウンド誘致を視野に入れ、セールスおよびマーケティング機能の強化についても検討していく必要がある。
- ・インバウンド向けの仕掛けをもっと増やしていくことも必須。
- ・一般的に、大規模な観光施設ではバス団体の来訪比率が一定程度確保されており、周辺地域での宿泊や食事を組み込んだ旅行日程を団体ツアーとして提案することで、地域経済への波及効果が高まるが、現状では団体バス利用が少なく感じられる。
- ・個人来館が中心となる場合、施設単体の来館者数は確保できても宿泊や消費につながりにくく、地域全体への経済効果は限定的となり、県内の広域観光の推進も難しくなる可能性がある。そのため、記念館単独の集客にとどまらず、広域観光の拠点としての役割を意識し、団体旅行や滞在型観光を促進する施策についても検討いただければ。
- ・当施設の設置目的である「広域観光の推進を図り、地域の発展に寄与する」という役割を改めて整理し、観光資源としての持続可能な運営について検討してもらえれば。
- ・閑散期の稼働率向上に向けては、来館や周遊を促すインセンティブ施策の導入も有効ではないか。

(いなもと委員)

- ・今年度も素晴らしい実績であると、大変感動している。
- ・観光において現在特に重視されているのが市町村連携。ひとつのスポットではなく、いくつかのスポットが集まって観光客を誘致するというやり方が流行になっている。引き続き市町村や地元企業と強い絆にて事業を進めてもらいたい。
- ・小さな子どもを連れて博物館へ行くというのはハードルが高く、行きづらい部分もあるが、教育旅行の受け入れに関し、特に小学校以下の保育園も受け入れている点が良い。ワークショップの参加者も多く、お子さん方にも楽しい思い出として残るのではないかと思う。来年度も持続してもらいたい。
- ・教育旅行において、岐阜県内に宿泊する学校がどの程度あるのか、わかれば伺いたい。
- ・開館後5年が経過しても、初めての来館者が約8割いるというのは注目度もあるすごいことだと思う。事務局からリピーターを大事にしていきたいとの話もあり、その通りだと思うが、年間パスポートの状況についてはどうか。

(葛西委員)

- ・新年度予算編成においても武士道が取り上げられていた。県の武道ツーリズム、ロケツーリズムにおいて、記念館が戦国武将観光の拠点としての役割を果たしていくのではないかと考えている。
- ・アンケートによると日帰りが多い。岐阜県内の滞在時間をいかに伸ばしていくか。広域周遊コースなどの造成が必要だと感じる。
- ・地元の財界の方と話をした際に、記念館と地元の方との間にやや距離間があるとおっしゃっていた。地元と連携し、地元の方が誇れる記念館であるべき。

(笠谷委員)

- ・事務局より女性来館者が多かったとの説明があったが、とても頼もしく、刀剣好きな女性は多いので戦略的に良い。今後も積極的に進められると良いが、女性が多かったという統計資料はあるか。
- ・子供を中心とする友の会のようなものができないか。全国の若い関ヶ原ファン、歴史ファンを育成するために、小・中学生を中心とするような取り組みがあると良い。歴史離れと言われている時代に、記念館が積極的にアピールできるとよく、友の会という啓発活動を進められる体制ができれば、記念館のみならず日本全体にとって大変有益である。
- ・京都には多数の外国人が来ている。団体ではなく個人で京都に来ているインバウンド客をいかに記念館に呼び込むか。展示を見て喜んでいただけるのは明らかなので、あとはアクセスの問題だと思う。

(池戸課長)

- ・男女別の来館者統計はとっておらず、女性が多かったとのいうのは体感的なものではあったが、8・9月の刀剣関係の企画期間においては、これまでとは異なる客層に来館をいただいた。女性来館者の年齢層も幅広い年代の方にきていただいた。

- ・当館は午後 5 時閉館なので、通常であれば、午後 3 時ぐらいには来館者のピークが過ぎていくが、期間中はスタンプラリーを実施していたので、スタンプラリーのチェックポイントを回り、午後 4 時頃に記念館に来館しノベルティを受け取りにくる方が多くいたが、それはほぼ女性で若い女性や親子など様々。その方々がリピーターになっていただくような取り組みができればと思っている。

(三輪会長)

- ・女性の刀剣好きは、ここ 2、3 年の一つのブーム。とても驚くのは、女性はいかに会場が混雑していても、一人一人がお互いに譲り合って展示物を見るというルールが確立している。そういった点も大切にしていきたい。

(北村委員)

- ・関ヶ原もりあげ隊では、関ヶ原合戦の特別企画「のろしの再現と鉄砲隊スペシャルツアー」に協力した。元は「関ヶ原のろしの会」という団体があったが、高齢化の影響で活動を終えることになり、関ヶ原もりあげ隊が引き継いだ。9 月 15 日当日は祝日で多くのお客様に来ていただいた。隊としても初めての試みであったが、この「のろしツアー」は非常に良かったのではないかとと思っている。丸山の頂上で烽火を上げると同時に、北小学校のグラウンドで鉄砲隊の演武も実施したが、その場でも烽火を上げ、近くで見てもらえるような企画も行った。今後も、烽火再現を続けていきたいと思っており、また記念館ともコラボして、一緒に取り組んでいけたらと思っている。また、教育委員会や学校とも協力し、中学生を参加させたいという意見もあったので、烽火の体験などにも参加してもらえたらと思っている。
- ・インバウンドに関し、「SHOGUN」のドラマにより、合戦に興味を持った方も多と思う。私も見たが、とてもリアリティのある映像で、武将などに興味を持つきっかけになると思えた。様々な制約もあるかと思うが、「SHOGUN」とのコラボができないか。「SHOGUN2」には SnowMan の目黒蓮も出演するというので、日本人の女性も興味を持つと思われ、何かしらコラボができれば、来館者もかなり増えるのではないかと思う。
- ・まわりの関ヶ原町民に聞くと、まだ記念館に来たことがないという人もいるので、ぜひ関ヶ原町民にはまずは 1 回、記念館に来てもらいたいと思っている。可能であれば、町民を招待していただけるような企画があると良い。
- ・知事が代わったが、何か影響はあるのか。関ヶ原ナイトが無くなるというのも聞いている。記念館の運営に関しても、力の入れ方などが変わるのではないかと町民から心配の声も出ている。影響があるのであれば聞かせてもらいたい。

(松川委員)

- ・昨夏、知人のドイツ在住の母子が一時帰国され、記念館にご案内した。小学校 6 年生相当の男児は、特に 6 階の大筒や火縄銃を実際に持ったり、兜をかぶったりする体験コーナーに興味を示した。売店でも高価なレプリカの刀を購入するなど、非常に印象的だったとのこと。日本滞在中に再度来館されたそう。

- ・岐阜市や池田町に住む親族も一緒に来館したが、記念館への来館は初めてとのこと。先ほど関ヶ原町民がどれほど来館しているかとの話もあったが、この周辺に住んでいる岐阜県民で記念館に来館した人がどのくらいいるのか。実際に来てみると素晴らしいところだと大変喜ばれる。まずは足を運んでいただくための工夫を様々な機会をとらえて実施していく必要がある。
- ・どの層を来館者のターゲットにするのかというのは難しいと思うが、観光拠点として事業を進める面と、登録博物館として学術的な価値も持ちながら長続きさせていく面のバランスを取っていく必要がある。
- ・教育旅行では小学生が一番多く来館しているし、自身の経験からも小学生、特に男の子は夢中になれるような場所。さらに歴史の好きな中高生や大学生などの層も取り込めると良い。
- ・本日館内を見学した際に、平日にも関わらず多くの来館者がいた。団体の方かと思うが、どういう傾向の団体旅行の方が来られるのかお聞きしたい。

#### (三輪会長)

- ・地元の方が少ない、来館しないというのは、非常に深刻なこと。この館が計画された時、基本計画の中で打ち出している1つの大きなテーマは「市民と共生する」であったはず。市民と共にある記念館であることが一番の基礎でないといけない。そのために何をやるかといえば、基本的にはボランティアとしての参加。一つ一つにボランティアとして参加してもらい関心を高めていくべきであるが、これが果たされたのか。
- ・まずは市民との関係の在り方という目線が必要ではないか。来館者を増やすことはもちろん大切なことであるなか、市民の来館者を増やすべき。
- ・来館者のカウントの仕方について入場券でカウントしていると思うが、無料コーナーやレストラン等もあるので、そういった場所の人数を把握していくなどの努力も必要ではないか。
- ・市民にいかに親しんでもらえるような仕掛けを、館として行っていく。記念館はどんどんステータスが上がってきており、今や登録博物館にもなり、岐阜県で一番の博物館になったと思う。そういった認識も含め、今後どうやって市民との共生をしていくのか。そのためには、市民協力を得ながら行うための「仕事」が必要。
- ・開館後5年経ち、館全体の見直しをしなければならない時期に来ている。通常、博物館はおおよそ10年程で見直すというのが風潮だと思うが、経験則から5年程で基礎的な研究、見直しを館として行う時期に入ってくる。5年経った記念館が、今後は岐阜県内の博物館の指導的な役割を担っていかなければならず、その際に必要なのは、他の館を指導していけるような、あるいは他の館も一緒に参加してもらえるようなことを考えていくこと。提案としては、現在日本全国の博物館、美術館、資料館が、積極的に取り込もうとしている虫やカビの防御であるIPM。薬に頼らず、環境に優しく人の手で行っていくものである。これを一つの習慣とし、岐阜県内の博物館や資料館に対してリーダー的な役割を確立していけるようになってほしい。また、それを市民に参加してもらえるようになると良い。これまでの5年間という実績があるので、次の新しい実績づくりをすることが市民との共生

の大きな入口になっていくのではないか。

- ・市民参加を考える際、参考となるのは美濃加茂市民ミュージアム。
- ・文化財を活用して観光に繋げていくというのは1つの大きな流れであるが、一方で、保存の問題をしっかりと考えなければ、これからの観光行政は成り立たない。
- ・関ヶ原古戦場という史跡の問題であると思うが、関ヶ原での建物建設や現状変更の際、土砂を掘ったり地盤の整理をすることがあるが、盛土や削平に何か規制はあるのか。古戦場の地形の高低の記録はどのように取っているのか。土の切り盛りによって高低が逆になっている場所もある。

(柴田副館長)

- ・教育旅行に関し、当館に関して言えば、修学旅行での来館はあまり多くなく、日帰りでの来館が多い。
- ・年間パスポートの発行件数は、年間で500件程。今年度について言えば、夏季に刀剣乱舞ONLINEとのコラボ企画を実施した際に、年間パスポートで何度も来ていただく方が多く、昨年度よりも増えている。パスポート発行数の状況や、パスポートを使って入館された方がどれほどいるのかは把握しているが、その集計等については今後検討していきたい。
- ・地元との距離感という点については、先ほど説明させていただいたとおり伊吹山ドライブウェイとの連携を今年度初めて実施したりと少しずつ始めてはいるが、開館5年が経過し、今後いかに地元根付いていくかを考える中で、非常に重要なテーマだと思っている。どのような手法があるかということも含めて検討していきたい。関ヶ原町については、まず小学校の生徒さんは皆さん来ていただいているので、それ以外の一般の町民の方とどのように連携できるのかが非常に大事だと思っている。
- ・小中学生をターゲットにした友の会の取り組みについて、現在友の会といった形では行っていないが、関ヶ原町の観光協会が中心になり、小中学生を対象とした自由研究コンテストを毎年実施しており、小和田館長も審査員として参加している。そういった取り組みを繋げていきつつ、記念館としても小中学生に対してどのようにアピールができるかということを考えていきたい。
- ・「SHOGUN」とのコラボやインバウンドの傾向について、多言語リーフレットの配布で見ると令和5年度から令和6年度は2倍程になっている。特に英語圏の方が非常に多く、アンケートでも、「SHOGUN」を見て来館したという方も多くいた。「SHOGUN2」の公開時期は未定であるが、連携や作品を活用してのPRも考えていきたい。また、京都を来訪する外国人観光客をどのように呼び込んでいくかという観点も含めて検討したい。
- ・前知事の時代に記念館が開館し、新たな試みをして発信し、皆さんに存在を知っていただくというのがこれまでの5年間であった。今後は周遊や武道ツーリズム等でいかに記念館を活用していくかなど、時期としてフェーズが変わってはくるが、県としては知事が代わっても、記念館を積極的に活用していくスタンスは変わらない。
- ・団体旅行による来館については、一つには旅行会社が企画をし、滋賀県など近辺と組み合わせて来ていただくことが多い。
- ・町内の方も含めて県民の方にご来館いただくか、あるいは中学生、高校生、大学生など

歴史に興味ある方にどう来ていただくかという点に関しては、様々な層へ働きかけをどうしていくのか、引き続き考えていきたい。

- IPM も含めた地元の方との連携について、現在記念館ではサポーターという形で館内の案内をお願いしている。関ヶ原盛り上げ隊、史跡ガイド、地元のボランティアの方、また町も含めて連携をしているが、地元の方に記念館をより身近に感じてもらえるよう考えていきたい。また IPM 自体は館として取り組んでいるところであるが、市民参加の点で、どういったことができるのか今後研究していきたい。
- 土地の開発に関し、関ヶ原古戦場の史跡地については規制はあると聞いているが、周辺地の規制、開発前の記録方法等については把握をしていない。

(池戸課長)

- 修学旅行としての来館では、例えば関西の学校などは岐阜と愛知をセットにすることが多いと聞いている。以前は名古屋城などを中心としていたのが、記念館が開館したことにより、行程のなかに記念館を組み込ませたということは聞いている。
- 団体旅行に関し、年齢層ではやはり 60 代以上の方が多い。また、土日などは昔と比較して減ったとは言えど、企業による社員旅行もある。
- 令和 5 年度は「どうする家康」の放送があり、ゆかりの地を巡るというパッケージツアーが同年、また翌年の上半期までは多かったが、その後、団体旅行が減ったと感じている。一般的なテーマの団体旅行に加え、そういった話題性のあるワンテーマのものを上手く取り込めるようにしていきたい。今年については「豊臣兄弟！」というテーマがあるので、そこを上手く取り込めると良い。
- 記念館の文化財保護は IPM という考えで運営しているが、市民の方、ボランティアの方にどういった形で参加していただけるのか考えていく。

(小和田館長)

- 委員方にご指摘いただいた、1 度も来館していない関ヶ原町民の方がいるというのは、改善すべきところ。
- これまでは関ヶ原研究会のように、研究という点に力を入れてきたが、本日いただいた市民参加型の博物館でないと長続きしないというご意見はそのとおりだと思なので、今後そういった方向についても考えていきたい。